自　　己　　評　　価　　表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
学校番号（38-1）

教育方針	（基本方針） 　人格の完成を目指して、思いやりの心・向上する心・健やかな心を養い、21世紀をたくましく生きぬく、自主的精神に充ちた、心身ともに健康な生徒の育成に努める。 （指導目標） 　自己教育力の向上を目指して、基礎・基本の徹底を図り、生徒一人一人の自己実現を促す。	重点目標	（本年度の重点努力目標） 地域に根差した協働活動による自己改革力の育成 ～確かな歩みで着実な成果へ～ 1　地域に根ざした学校、地域に貢献できる学校を目指す。 2　個に応じた学習指導を徹底し、進路実現を図る。 3　自ら考え、協働しながら行動できる生徒の育成に取り組む。 4　教育活動を通して、健全な心と体を育てる。 5　清潔で美しい学校環境づくりに努める。 6　教育活動の公開と情報発信に積極的に取り組む。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校運営等	地域に根差した協働活動による自己改革力の育成	○生徒・教職員・保護者・地域住民が一体となった学校(人)づくりを進める。 ・生徒の地域へのボランティア活動参加100% A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:70%未満 ・笑顔で元気なあいさつ100% A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:70%未満 ・毎日教職員から声をかけられる生徒100% A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:85%以上 E:85%未満 ・三瓶分校へ入学して良かった生徒、入学させて良かった保護者100% A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:70%未満	B	・77.0%の生徒がボランティア活動に参加できている。 ・生徒全員が笑顔で挨拶ができている。 ・生徒全員が教員から毎日声をかけられている。 ・生徒も保護者も全員が三瓶分校に入学してよかったと回答している。	・ボランティア活動を通じて自己啓発や自らの成長につながることを指導しながら活動の機会を紹介し、積極的な参加を促していきたい。 ・円滑に人間関係を構築する第一歩となる挨拶を今年度同様推進していく。 ・三瓶分校を選び入学してくれた生徒一人一人を大切に育てるために、情報共有を積極的に行いタイムリーに声かけを行っていく。 ・最後の学年となり生徒数が減少するが、魅力的な学校行事を地域と協力しながら実践し、満足のいく高校生活を提供していく。
		○学校行事への保護者の参加率を高める。 ・保護者の学校行事への参加・協力100% A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:60%以上 E:60%未満 ・PTA総会出席60%以上 A:60%以上 B:50%以上 C:40%以上 D:30%以上 E:30%未満 ○地域との協働に努める。 ・生徒・教職員の地域行事への積極的な参加 ・市や町、公営塾との連携強化による三瓶分校の魅力化推進	B	・保護者全員に学校行事へ参加・協力をしていただいた。 ・保護者のPTA総会への出席率は44.0%であった。 ・地域行事が復活する中、80%の生徒が地域行事に参加しており、教職員も積極的に参加できている。 ・「市や町、公営塾と連携を取り、三瓶分校の魅力化が図られている」の評価の平均は保護者が3.6、教職員が3.8であった（５段階評価）。	・保護者にとってより興味関心のある講話やイベントの計画を、PTA役員と協力して行う。 ・地域に学び、地域の文化や歴史・自然等への愛着と敬意を深めるため、今後も積極的に地域行事への参加を呼びかける。 ・学校の特色や魅力をアピールするためには地域の協力が必要となる。連絡を密にとり、情報を交換していく。
	時代に応じた教育活動（業務改善）	○積極的に本校の情報を発信する。 ・HPをリアルタイムで更新する。 ・メディアを通しての積極的な魅力発信 ○教職員の多忙化を改善する。 ・時間外勤務の短縮 A:1か月あたり45時間以内 B:60時間以内 C:70時間以内 D:80時間以内 E:80時間超え	B	・ＨＰ、インスタグラムの更新、メディアの活用はおおむねできている。 ・「教職員の多忙化が改善されている」の評価の平均は3.7であった。 ・リラックスデイをほぼ月１回設け、定時退勤を推奨しており、また、時間外勤務は１か月あたり45時間以内となっている。	・今後も学校のＰＲ活動の媒体として、ＨＰ,インスタグラム、メディアを適材適所に活用する。 ・個々のライフワークバランスを尊重し、教職員の多忙化をさらに改善するよう努めながら、今後も業務を遂行していく。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。

自　　己　　評　　価　　表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
学校番号（38-1）

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	個に応じた学習指導 -確かな学力の定着と向上-	○ICT機器の活用など、生徒の学習意欲と理解度を向上させる指導法の研究に取り組む。 ・生徒の授業満足度について A:100%　B:99～80%　C:79～60% D:59～40%　E:40%未満	B	・授業アンケートで「授業の内容が理解できている」の評価が4.17ポイントで、昨年度より大きく増加した。 ・ICT機器を活用して、円滑な授業展開及び生徒の理解度の向上につながる取り組みが見られ	・更なる生徒の学力向上を最重要視し、今後もICT機器の活用など、生徒が興味・関心を持つ授業かつ分かりやすい授業を目指して、全教員が自己研鑽に努める。
		○生徒自ら学ぶ意欲を育てる。 ・家庭学習時間毎日２時間以上 ・適切な課題の提供と確実に達成させるための指導の徹底 ・生徒個々の学力と進路希望に応じた個別指導の充実 ・スタディサプリの有効活用	B	・学習時間調査では、全体では昨年度より1学期末で50分程度増加して2学期末で10分程度増加したが、3年生の学習に対する意識が高まってきている一方で、2年生が伸び悩んでおり、今後も対策が必要である。	・生徒個々の理解度を把握し、必要に応じて個別指導にも力を入れて、生徒が進路目標の実現に向けて意欲的に学習に取り組む態度を養う。 ・適宜、課題を与えたり確認テストを実施するとともに事後指導も徹底させることで、家庭学習の機会を与えるとともにそれをやり遂げることの重要性を認識させる。
		○アクティブラーニングを取り入れた授業の研究と実践を行う。 ・校外研修や他校視察を実施 ・ICTを活用した授業改善の実施	A	・各教員が積極的に他校の学校訪問等に参加し、授業研究・自己研鑽に努めている。	・さらに積極的に各研修に参加し、全教員が自己研鑽に努める。 ・生徒が主体的に参加できる授業を目指して、各教員が更に授業研究・実践に取り組む。
生徒指導・特別活動	三瓶スピリットの育成と向上(思いやりの心、向上する心、健やかな心)	○部活動、ボランティア活動を通して確かな三瓶スピリットを育てる。 ・積極的にボランティア活動に参加をさせる。 A:28名以上　B:25名以上　C:20名以上 D:15名以上　E:15名未満	A	・28名の者が１～９回のボランティア活動に参加しており、生徒のボランティアを通しての意識は高い。 ・少人数の活動ながら各自の目標に応じた部活動ができており、三瓶スピリットの育成に心掛けることができている。	・様々な地域への貢献ができるよう、生徒会や家庭クラブ、クラスへ地域の行事やイベント、学習会などを発信していき、活躍できる場を増やしていく。
	特別活動(部活動)の活性化	○生徒自身による自主的な学校行事、生徒会行事を推進する。 ・一人一役運動の推進と徹底 ・部活動加入100% ・各種大会・発表会等への参加、２回以上	A	・77%の生徒が２回以上の大会や発表会に参加しており、校内においても一人が何役もこなして行事や学習活動に取り組めている。 ・部活動加入100%。	・生徒数の減少によって、一部の生徒への負担が増加しないように、バランスのとれた役割配分に取り組む。
	安全・衛生指導の徹底	○安全指導の徹底を図る。 ・月1回、教職員による街頭指導を実施する。 ・手洗いや手指消毒の習慣化を図る。	A	・ヘルメット着用率は100%であり、1年を通して交通事故に巻き込まれることなく、安全に登下校ができた。 ・感染予防のための手洗いや手指消毒ができており、習慣化を図ることができていた。	・安全指導の頻度は、十分に確保できているが、今後内容の充実を図るために、一人一人にあった個別の安全指導に取り組む。 ・感染症対策等、生徒一人一人が積極的に自ら取り組んでいけるよう指導方法の研究をしていく。
	美しい学校環境づくり	○学校生活を通して、環境美化に対する意識を高める。 ・清掃活動以外の時間で、1日1回、学校美化に取り組む。 A:80%　B:70%以上　C:60%以上 D:50%以上　E:50%未満	B	・87%の生徒が、学校生活の中で自主的に美化活動を実施している。生徒一人一人が、少人数での校内美化に対して、積極的に取り組めるように今後、取り組んでいきたい。	・生徒が自主的に美化活動に取り組めるよう、日々の清掃時間の指導を効果的なものにしていく。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。

自　　己　　評　　価　　表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
学校番号（38-1）

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	個に応じた進路指導	○全教職員・保護者が一体となって進路指導を進め、進路を実現する力を養う。 ・志望校合格100%・就職内定100% A:100%　B:90%以上　C:80%以上 D:70%以上　E:70%未満 ・スタディサプリの積極的活用 ・進路に関する三者面談の充実 ・在学中、各種検定一人一検定以上合格	B	・生徒の興味関心に沿った進路指導を行い、志望校合格100%・就職希望者内定100%を達成した。 ・個々の学習状況に合わせたスタデイサプリの課題を提示し、生徒の43%が十分に活用したと回答した。 ・各種検定一検定以上の合格73%であった。	・少人数であることを生かして個別指導をより行い、第一志望に合格できる力を付ける指導を行う。 ・検定取得、資格取得意識の高揚を図る。 ・スタディサプリの教科での活用を促していく。
		○生徒の進路意識向上のため適切な進路情報の提供や啓発を行う。	B	・生徒一人一人の進路希望を理解し、オープンキャンパス情報等を適宜提供した。各学年で進路に関するホームルーム活動を実施した。	・参考となるWebサイトの紹介や説明、ガイダンス等を行うことで、将来の進路デザインを構築できる活動を充実させる。
	キャリア教育の充実	○職業指導や就業体験活動の充実を図り、望ましい職業観・勤労観を養う。 ・応募前職場見学・オープンキャンパスへの参加の促進 ・仕事体験学習やキャリア教育講演会等の実施 ・ハローワークとの連携強化	B	・3年就職希望者は企業説明会や応募前職場見学に参加し受験先を決定した。進学希望者は、オープンキャンパスに参加し受験校を決定し、多数の者が総合型推薦を受験した。 ・2年生対象に2学期に企業説明会、3学期に職業体験授業を行った。	・3年生の早期に進路希望を明確にするように指導し、オープンキャンパスや企業情報の収集を支援する。
人権教育	人権学習の充実	○人権・同和教育HR活動の年３回実施や人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。 ○事前復興に係る防災教育と合わせて、災害に伴う人権問題について考えさせる。	B	・人権・同和教育ホームルームと講演会の内容がリンクする部分があり、部落問題を身近な人権課題として生徒が考えることができた。 ・被災した方が講師として来ていただいたことで、災害への備えの大切さを実感していた。	・震災の遺構を現地で見たり、災害の支援に間接的に関わらせたりしながら、できるだけ自分ごととして捉えられるようにしていきたい。 ・形に残る活動にさせる。
		○人権だよりを毎学期発行し、人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。	B	・校外の活動に積極的に参加し、人権意識の高揚に努めることができたが、教師主導の活動になりがちであった。	・人数が少ない中で、啓発活動が効率的に行えるように工夫する。
	情報モラル教育の充実	○授業やホームルーム活動を通して、携帯電話やネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	B	・授業等でタブレットを使う機会があり、折りに触れて考えさせることができた。	・インターネット利用時に適宜説明をしながら、責任を持った利用を促す。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。

自　己　評　価　表

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
学校番号（38-1）

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
現職教育	研修の充実	○校内外の研修への参加を勧奨し、授業力・教育実践力の充実を図る。5研修以上の参加を目指す。	B	・5研修以上参加した教職員は59%、1～4研修は29%、0回は12%であった。	・ニーズを把握し、研修への呼びかけを全体に行う、個別に行うなどしていく。
		○公開授業で「授業の見どころ」を設定して研究授業としての役割を持たせ、授業の改善を図るとともに、参観者による授業評価の一助とする。	C	・「公開授業が授業改善の一助になっている」の評価平均は3.6であった。 ・参観者がいない、少ない公開授業が多く、漫然としたものになりつつある。	・参加者が増える工夫を行うとともに、授業改善の契機とするという目的を周知していく。
保健・安全管理	保健活動の充実	○月１回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行し、保健指導の資料として活用する。	B	・月１回「保健だより」を発行し、ホームルーム担任に依頼し、保健指導資料として活用し、自己管理の促進を図った。	・生徒の健康課題に合わせた内容を「保健だより」に掲載し、保健指導資料として効果的に活用する。
		○生徒保健委員会活動を充実させるため、健康に関する情報発信を校内放送等で行い、意識向上に努める。	B	・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの予防について、随時校内放送で注意喚起をした。 ・文化祭で、食に関する展示を行い、将来の健康や疾病予防について食を通して意識の高揚を図った。	・校内放送や掲示物、保健だよりの作成を通じて健康に関する情報を発信し、生徒の自己管理能力の高揚を図る。
	安全管理の徹底	○月１回の安全点検を実施し、安全管理の徹底を図る。	B	・月１回の安全点検を実施し、迅速な安全管理に努めた。	・月1回安全点検を実施し、必要箇所の速やかな修繕と、安全管理を推進する。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	○分校化により本校と予算が一本になったため、本校と連携して予算を有効に活用する。	C	・コピー用紙の購入や印刷物の製本を本校・分校まとめて行うことで、それぞれに行うよりも約５%の経費削減となり、予算を有効活用することができた。	・本校と連携しながら更なる経費節減に努め、教育活動への効果的な予算執行をする。
	環境整備と安全管理	○校内の修繕箇所の早期発見、早期対応を図る。	B	・安全点検や職員間の情報共有により、修繕箇所を把握し対応することとしている。急を要するもの、簡易なものは対応できた。	・生徒及び教職員の安全を第一に考え、引き続き設備環境の向上に努める。
		○衛生的で美しい学校環境づくりに努める。	B	・樹木剪定及び除草作業が必要な時期に適切に実施できた。	・より一層、美観を考慮して環境整備を行う。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。